

んだすな

今日のトピックス!

- ・活動紹介
小豆沢青年会（鹿角市）
- ・私のいっぽ
河原崎 彩子さん
（上小阿仁村 地域おこし協力隊）
- ・CB/CSRいろは塾
たしろ元気の拠点！たしろ直売所・たけのご館
- ・こちらNPO元気研究所
「おしえて！事業型NPOの考え方」
- ・情報あらかると
- ・あきたスギッチファン্ড情報

自然と温泉と音楽を満喫!!

10月19日（土）、大館市にあるアクトバード矢立温泉赤湯にて、『赤湯フェス』が開催されました。

芸術活動を通して地域活性化を目指すアートNPOゼロダテの主催で、大館市の貴重な資源である温泉を活気づけようとした活動です。

当日は県内外から多数のアーティストが集い、「ふるさとへの想い」を込めた演奏が披露されたほか、楽器やエコバッグづくりの体験コーナー、カフェが設置され、訪れた人たちは心地よい音色と温泉を堪能し、至福のひとつときを過ごしました。



活動紹介



鹿角市小豆沢青年会

小豆沢青年会(あずきさわせいねんかい)は、県内北部の鹿角市八幡平地区、小豆沢自治会に居住する若者27人で構成しています。かつては、会員数が50人を超える大所帯の時代もあり、30歳で卒業する定年制を設定していました。現在は、若手会員の減少が影響し、卒業の年齢を40歳まで引き上げ、活動を展開しています。

八幡平地区の各自治会では、地元での就職難や雇用環境による若者離れ、少子高齢化などが深刻化し、青年会組織の在り方が見直されています。しかし、このような状況下だからこそ、若者の活力が地域や自治会に与える影響力、果たす役割は大きく、青年会組織の必要性を認識しています。



小豆沢青年会は、会員同士の絆、会員の愛郷精神が強い組織だと自負しています。上下関係が存在するようでは存在しない、「横一線」の状態が、存続している理由と言えるでしょう。側面から支えてくれるOBの存在も非常に大きく、様々な面で惜しみなく指導、協力してくれます。入会したばかりの会員は、先輩やOBの後ろ姿を見て学び、時には自ら助言を求めます。この過程が自然と身に付き、一人前に成長するのです。

主な年間行事は、自治会運動会の運営、稲作の害虫予防を祈願した「虫送り」、盆踊りに向けた太鼓練習、地域を練り歩く「七夕」、毎年8月16日の「盆踊り」、国重要無形民俗文化財「大日堂舞楽」の関係行事への参加などです。

このほか、八幡平地区の野球、駅伝、スキー、卓球など各種スポーツ大会への参加、自治会内の環境保全活動、神社の鳥居改修などの地域貢献活動、自治会の要請活動にも取り組んでいます。

一昨年は「子どもが伸び伸びと成長できる環境づくり、地域の子育て力を向上させたい」という狙いで、地域のお年寄りの協力を得て、子どもたちに昔遊びを体験させる事業を実施しました。八幡平地区文化祭に合わせたことで多くの住民から喜ばれたほか、何より子どもとふれ合うお年寄りの優しい笑顔が印象に残っています。



核家族が増え、人と人とのつながりが希薄化する現代社会で、家族の素晴らしさをもう一度見つめ直してもらおうと、昨年は文化祭に合わせて新たな事業を実施しました。会員の半数以上が家庭を持ち、子育てに奮闘中の父親です。子育てに熱心な父親「イクメン」の姿を披

露しながら、「家族や地域の絆」を再確認させ、未婚会員や地域の若者に家族、結婚、子どもの素晴らしさを実感する機会を与えようという狙いで、大切な人に宛てる「家族へのラブレター」を募集、展示しました。



ラブレターは県内外から372通が寄せられました。事前に選考委員が選んだ120通を展示し、文化祭当日に来場者の投票で10通をさらに選出。これらを会員が心を込めて朗読しました。会場は涙、感動に包まれ、来場者の拍手で大賞を決めました。決して優劣を決める企画ではございません。寄せられたすべての手紙が、それぞれの大切な人に宛てた心が込められたものばかりでした。

本年度は通常行事に加え、地元の自然に囲まれた広場で親子を対象にしたキャンプを企画しましたが、あいにくの天候不良で中止になりました。ラブレターは引き続き募集し、県内外から120通が集まりました。10月27日に開催された八幡平文化祭で展示したほか、10通ほどを来場者の前で発表することができました。すべての作品は昨年同様、冊子にしました。

各種行事や事業を通じて、会員同士の絆が次第に深く、強くなるのを日々実感しております。すべての会員が小豆沢に誇りを持ち、愛着もあります。毎年、同様の事業の繰り返しですが、自治会の機能を正常に果たし、維持していくためには、必要な活動です。最近、会員の父親とともに、子どもたちが青年会の各種活動の場に姿を見せる機会が多々あり、非常に嬉しい光景です。小さな頃から、愛郷精神が生まれ、大人になるにつれて自然と青年会活動を理解し、参加して取り組んでくれることを望んでいます。我々の活動する姿や地元を愛する心が、後生への継承の第一歩に結びつくものと思っています。

(文：小豆沢青年会 安倍倫明)

■家族へのラブレター—一部紹介

歩果（9才）から、お母さん（37才）へ

いつも、わたしたちのおせわやおいしいごはんを作ってくれて、ありがとう。これからおしごとがあってたいへんだけど、むりしないでね。わたしはこれからたよってばかりじゃなく、なんでもお手伝いするから、できることがあればなんでもいってね。

わたしが家でいちばん好きなのはお母さんだよ。お母さんが、わたしにとっていちばんのお母さんだよ。

妻へ

結婚7年目によく授かった子供。妊娠の嬉しさより、母子ともに健康に産まれてほしい。ただそれだけを願っていました。今では二人の子宝に恵まれ、こうして楽しく暮らせているのは結婚当初では考えられなかったね。君ががんばってくれたおかげです。ありがとう。

子供たちには健康に育ってくれればそれだけでいい！と思いつつも、ついついきつく叱ってしまい葛藤する毎日。

そんなとき君は、僕に叱られて泣く子供たちを甘やかすわけでもなく、子供たちにもわかるように優しく諭してくれている。

その姿にいつも心が救われるし、1番の理解者なんだと嬉しく思います。

本当に君が妻でよかった、君がこの子達の母親でよかったと、心から感謝しています。

ありがとう。

- 家族へのラブレター Vol. 2
- 発効日 2013年10月25日
- 編集・発行 小豆沢青年会
- お申込み・お問い合わせ 018-5141
- 秋田県鹿角市八幡平字堂の上64-1
- 八幡平市民センター内イベント事務局
- TEL0186-32-2029/FAX0186-32-2004
- E-mail:hachi-chiiki@ink.or.jp



私のいっぽ

～地域を変えていく新しいか～

河原崎 彩子
さん



上小阿仁村
地域おこし協力隊

地域おこし協力隊は、人口減少や高齢化などの進行が著しい地方において、地域外の人材を積極的に誘致し、その定住・定着を図り、「都会を離れて自然と共存したい」「地域社会に貢献し、人とのつながりを大切に生きていきたい」などの意欲ある都市住民のニーズに応えながら、地域力の維持・強化を図っていくことを目的とする取り組みです。

京都府から平成25年7月に上小阿仁村地域おこし協力隊に着任した河原崎彩子さんは、特技の絵を活かした地域情報発信や KAMIKOANI プロジェクト秋田に携わりながら地域おこしにチャレンジしています。

活動を始めたきっかけは？

京都の芸術大学を卒業してすぐに農林水産省の「田舎で働き隊！」事業の研修生として活動したことが今に繋がっています。約一年間、研修先の長野県栄村で暮らしながら、現地のガイドマップやイラストなど、絵を通じたものづくりで地域が元気になるにはどうしたらいいのか、考えながら活動しました。

栄村での経験は京都を出たことがなかった私にとって、「こんな日本があるなんて！」と驚きと新鮮さ、そして高齢化や過疎など今まで目にしたことがなかった現実を知り、私にできることはないかと考え、人や地域を結ぶ絵かきになりたいと、フリーランス（※1）の「絵かきミクロ」として作家活動を始めました。

今年からは総務省の「地域おこし協力隊」に応募し、1月～3月に秋田県五城目町で短期隊員として活動したのち、本腰を入れて活動しようと芸術祭の事業に取り組んでいる、秋田県上小阿仁村の地域おこし協力隊に7月1日より着任し、活動しています。

※1 フリーランス＝自らの技能を提供し社会的に独立した個人営業種、または個人企業法人。

※2 ルポ＝現地からの記事。



地元の魅力を伝えるには？

風景や暮らし、食べ物、人…全く違う地域から、村に入るとたくさんの良いところや魅力的なところに気がきます。それをイラストルポ（※2）にまとめ、描きためています。ずっと住んでいると、当たり前になってしまった村の良さを、村の人たちに改めて気づいてもらったり、村のことを知らない人たちにも、村を知ってもらったりするきっかけとして、このルポを活用していきたいと考えています。

また、地域を元気にするためには地元で暮している人たちが、積極的に取り組んでいかなくてはならないと考えています。そのために出来ることや取り組みを村の人と一緒に考えていきたいです。やれることは多いですし、やればきっと変わっていけると信じています。



これから何かを始めたいと思っている方々へ

まだ着任して間もないので、上小阿仁村を知ることから始めたいと思います。たくさんの人と出会って、村を楽しむことで、これから私にできることを考えていきたいです。

何かを始めるのはとても勇気のいることだと思います。知り合いもない秋田で活動しようと決めるまで、悩み、考えましたが、自分の夢のために行動したことが、今は良い決断だったと思っています。やってみないことには、分からないことが多いです。行動することで、きっと誰かのためになったり、自分の人生の経験としても大切な意味を持ったりすると思います。ぜひ、一步踏み出してみてください！

KAMIKOANI プロジェクト秋田

上小阿仁村にある、古くから伝わる伝統芸能、祭事、食、生活文化など、地域固有の資源を最大限に活用しながら現代美術の新しい表現と結び、美しい山々が織り成す里山全体を文化芸術空間として創造します。

活動ログは↓↓↓

<http://396mikuro396.blog46.fc2.com/>

河原崎さんのイラストはこちらからご覧になれます

絵かき ミクロ

その地域に根付いた伝統や風習、知恵や技を見て、知って、感じて、人と人、人と地域を 昔と今をつなぐ！ものづくりを目指し活動しています。

Facebook → 絵かき ミクロ

イラスト：河原崎 彩子

CB・CSRいろは塾

NPO派遣相談員として、県北地域を走りまわっているインキュベーションマネージャーの浅利博樹です。さまざまな地域ビジネス（CB）や、企業の社会貢献活動（CSR）の事例を紹介していきます。



たしろ元気の拠点！～たしろ直売所・たけのこ館

白神山地に属する標高1178mの田代岳から滾々（こんこん）と流れる清らかな水に育まれたたけのこが店頭と並ぶ5月中旬、大館市岩瀬の「たしろ直売所・たけのこ館」には県内外から多くのお客さんがひっきりなしに訪れます。お目当てはもちろん、「田代のたけのこ」。いまや田代の春の風物詩となりました。

大館市岩瀬の国道7号線沿いに位置する「たしろ直売所・たけのこ館」には、40名ほどの地域住民の会員それぞれの畑で採れる自慢の野菜や加工品が所狭しと並んでいます。

晩秋の先日訪れた際には、採れたてのマコモダケや山の芋を手にするお客さんを目にしました。

組合長の佐藤友司さんが勧めてくださったのは、丹波の黒豆とラズベリー加工品。ラズベリーは地元のラズベリー研究会が積極的に取り組んでおり、たけのこ館の定番商品でもあります。



国道を隔てて向かい側にあるJA直売所が閉店し、そこに出荷していた農家の方々は意気消沈。しかし「白神山地の恵みに育まれた美味しい野菜を多くの人に味わってほしい」、そんな想いを実現しようと数人の有志が集い、その想いに地域住民が参画し、2005年に発足・オープンしました。

メンバーは元気なシニアが中心。それぞれが持っているノウハウや技術を活かし、経営のすべてを分担して取り組んでいます。レジ担当も会員たちが交代で行っています。

「少しでも作った方々に還元したい」と会員の出荷手数料は低く設定されており、それが会員の励みになっているとのこと。反面、運営経費は潤沢とはいきませんが、「得

も無く、損も無く」長く継続し地域に愛され続けていることに繋がっているのでしょう。

また、たけのこ館には借りている農地があり、そこでも様々な野菜が育てられています。作付けから出荷まで一元化することでコストを抑えているのも特徴です。この農地では地元小中学校の農業体験実習も積極的に実施し、地域に根ざした運営を継続しています。

店前の広い敷地と国道沿いという立地を活かし、一年を通じて様々なイベントを活発に行い、田代産の農産物をアピールしています。



発足から8年経った現在、課題は会員の高齢化。現在の運営の維持と今後の成長のため、新たなアイデアを様々な模索している段階とのことです。

近年では周辺のコンビニエンスストアやレストランも撤退・業務縮小し、地域の人々にとって買い物や集いの場所も少なくなりました。

しかしたけのこ館は今日も変わらずオープンしています。それはこの地に必要かつ愛され続けてきた証拠といえるでしょう。

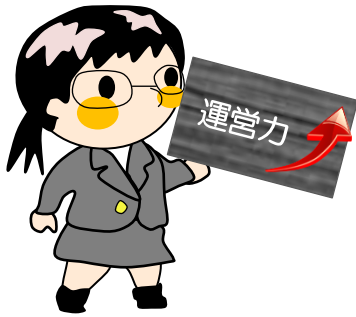
田代地域におけるこの地域ビジネスモデルを、是非とも若い方々に受け継いで頂き、更に発展してほしいと願っています。

たしろ直売所 たけのこ館
（組合長：佐藤友司）



〒018-3501

大館市岩瀬上軽石野39-36 TEL.0186-54-6168



～NPO・市民活動団体
安定した運営を目指して～

こちら NPO元気研究所

NPO経営安定化等対策事業
市川 愛望(いちかわまなみ)

おしえて！事業型NPOの考え方

現在、少子高齢化や環境問題、被災地支援などさまざまな地域課題に取り組むNPO・市民活動団体の活動が、民間と行政の架け橋となり地域を支えています。しかし、多くの団体が地域課題の解決に重要な役割を果たしてきている反面、活動の対象が支援を必要とする人たちや自然など、対価を得にくいことから活動資金確保に苦労している団体も多いのが実状です。

近年、こうした資金問題を解決するために地域資源やリサイクル資源、特産品などに市場価値を見出し事業収益を上げながら、自立して運営している「**事業型NPO**」の存在があります。

■事業型NPOとは？

現在、ほとんどのNPOが寄附や年会費、または助成金を主な収入源とし、その予算枠の中で活動しています。

これに対し、事業型NPOとは地域が抱える課題をビジネスの手法で解決し、運営していくための費用を自らの活動収益で捻出します。会員などに利益分配をしないこと以外はほぼ企業の運営方法と同じで、事業の成功を活動の成果とし、経営効率を重視していきます。地域課題解決と利益を上げることが同時進行で行われるため、人件費や設備費なども視野に入れながら安定したNPOの経営ができると考えられます。



廃食用油から粉石鹸やバイオディーゼル燃料を製造・販売する
取り組み
NPO法人
工房JOYさあくる(大館市)

事業型NPOの例としては、環境問題に取り組むNPOが廃木材からペレット燃料製造や生ごみから堆肥の製造販売をおこなったり、福祉に取り組むNPOが高齢者の運送や介護施設運営といった活動が挙げられます。

サービス利用者や商品購入者が、直接会員や賛同者に繋がる傾向が強く、最近では企業の社会貢献活動として事業型NPOを立ち上げるケースもあります。

■収益を生み出す事業計画をおこなうためには…

まず収益事業をおこなうには、自分たちが解決しようとする地域課題との関連性や、その地域での重要性を調べる必要があります。

例えば店舗が建つ時に、その場所にどんな根拠があるのか調査する必要があります。平日や休日に人は何人通るのか、車は何台通るのか、出品する商品の需要や付加価値、生産コスト、粗利益など、事業計画によって調べる内容は個々に違います。長い時間をかけて根拠を生み出すことは収益事業の基盤です。人を納得させられるだけの理由がなければ、収益を得られる事業とはいえません。

また市場で事業を行うために、商品の品質やサービスにも注意しなければなりません。顧客を獲得するために自分自身が顧客の目線に立って、品質の保証やコミュニケーションでの信頼を構築しましょう。

自立した運営をめざして……

事業型NPOはひとつの選択肢であり、活動を続けるための模範です。

収益事業を考える時には、多くの犠牲の上に成り立つ計画ではなく、小規模でも身の丈にあった活動から始め、寄付金・会費・助成金がなくなった時でも力強く運営していけるNPOに成長していきましょう。

自立した運営ができてこそ、外部からの社会的評価も上がり、賛同者が増えていくことに繋がっていきます。

イベント情報

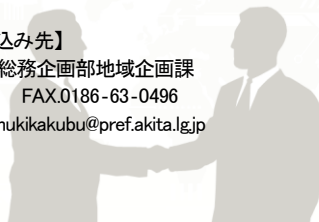
あきたエコマイスター 環境講演会・講座

環境問題の取り組みとして、各家庭で簡単にできる「省エネ」についてご紹介いたします。
【日時】平成25年11月17日(日)
 13:00～16:00
【場所】大館市北地区コミュニティセンター
 (大館市有浦1-8-15)
【講演内容】
 ①講演『家庭で出来る省エネ活動』
 講師:省エネルギー普及指導員 佐藤 郁子氏
 ②講演『バイオマスの有効利用』
 講師:会員 小坂 幸一氏
 ③実習『廃食用油による再生ローソク作り』
 講師:会員 布谷 保子氏
【対象】どなたでもご来場できますが、事前に申し込みが必要です。(先着30名まで)
【参加料】無料
【問い合わせ・申し込み先】
 あきたエコマイスター県北協議会
 副会長 工藤まで
 TEL.0186-42-7901



安全安心で住みやすい地域を！ NPO、企業と行政の協働推進セミナー

NPO、企業と行政が協力連携して地域の課題を解決し、多様な主体の協働による地域社会づくりについて講演します。
【日時】平成25年11月18日(月)
 14:00～16:30
【場所】北秋田市交流センター 2階第1研修室
 (北秋田市材木町2-2)
【講演内容】
 ①講演
 『NPO、企業と行政がよりよい関係を築くために』
 講師:NPO法人 社の伝言板ゆるる
 代表理事 大久保朝江氏
 ②事例紹介
 『「高齢・過疎地域」における共助カアップ支援事業〈横手モデル〉』
 『世界自然遺産白神山地と世界ジオパークを目指す男鹿半島の恵みを生かして湘南の藤沢市民との協働により絆を深める事業』
【対象】どなたでもご来場できますが、事前に申し込みが必要です。(先着50名まで)
【参加料】無料
【問い合わせ・申し込み先】
 北秋田地域振興局総務企画部地域企画課
 TEL.0186-62-1251 FAX.0186-63-0496
 E-mail:kitaakitassoumukikakubu@pref.akita.lg.jp



子育てをもっと楽しく・・・ 親子の対話クラス

子どもが良いセルフイメージを築けるように助けるスキル学んでみませんか？
【日時】平成25年11月19日(火)
 10:00～11:30
【場所】北部男女共同参画センター
 (秋田県大館市字馬喰町48-1)
【講演内容】『セルフイメージについて！』
【対象】どなたでもご来場できますが、事前に申し込みが必要です。(先着15名まで)
 ※託児が必要な場合はお申込み時にお伝えください。
【参加料】無料
【問い合わせ・申し込み先】
 子育てサポートふあみりーたいず 土門まで
 TEL.080-6046-7807
 E-mail:familyties2525@gmail.com



募集情報

元気なふるさと鹿角・小坂 いきいき地域づくり活動表彰

【募集対象】鹿角市及び小坂町にある団体(町内会、学校、企業、その他任意グループなど)又は個人で、次の要件を満たしている方です。
 (1)現に地域のための自主的・主体的な活動に継続的に取り組んでいること。
 (2)その活動が他の模範となるものであること。
【応募方法】応募・推薦用紙に活動内容などを記入し、鹿角地域振興局に提出してください(自薦、他薦どちらでも構いません)。用紙は鹿角地域振興局地域企画課窓口、県民ホール、県公式webサイト「美の国あきたネット」の「鹿角地域振興局」から入手できます。
【応募期限】平成25年11月15日(金)<当日必着>
【受賞者の決定と表彰】受賞者は5団体(個人)以内とし、鹿角市、小坂町、鹿角地域振興局などで構成する選考委員会において決定します。各応募者には、郵送により選考結果をお知らせします。受賞者には表彰状を授与いたします。また鹿角地域振興局ホームページなどで活動内容を紹介させていただきます。
【応募先・問い合わせ先】鹿角地域振興局 総務企画部 地域企画課 企画振興班
 (鹿角市花輪字六月田1番地)
 TEL 0186-22-0456



助成金情報

公益財団法人 ヨネックススポーツ振興財団 平成26年度助成金 募集要項

【助成対象】青少年スポーツの振興に関する事業を積極的にを行い、奨励または自ら行い、かつ3年以上継続して活動している、次の要件を満たした団体とします。
 (1)スポーツ振興を主たる目的とする公益社団法人、公益財団法人、一般社団法人または一般財団法人。
 (2)上記以外の団体で、次の要件を備える団体。(特定非営利活動法人など)
 1.定款、寄附行為に類する規約等を有すること。
 2.団体の意志を決定し、執行する組織が確立していること。
 3.自ら経理し監査するなど会計組織を有すること。
 4.団体活動の本拠としての事務所を有すること。
【助成対象期間】平成26年4月～9月、及び平成26年度の年間を通じた事業。
【助成金額】指定の期間に予定する事業予算の2分の1で概ね100万円以内とします。
【応募方法】下記ホームページを参照し、必要書類と申請書を添えて郵送で申し込みください。
【応募期間】平成25年12月31日(火)まで
【問い合わせ・申し込み先】
 公益財団法人ヨネックススポーツ振興財団事務局
 〒113-8543
 東京都文京区湯島3-23-13
 ヨネックス株式会社内
 TEL.03-3839-7195 FAX.03-3839-7196
 E-mail:zaidan@yonex.co.jp
 ホームページ:<http://www.yonex.co.jp/zaidan/joseikin.html>



第10回あきたスギッチファンド



2013年 11月5日(火) 助成事業 募集開始!

● 助成対象となる事業 ●

■ 本ファンド

秋田県内で行われる地域課題を解決する活動、社会に貢献する活動であり、団体等が自ら企画する事業で、単独あるいは数団体が協働する事業を対象とする。

■ 冠ファンド「三国子ども震災支援ファンド」

東日本大震災の被害にあった子どもを多方面から支援するNPO・ボランティア団体等の事業を対象とする。
※ 三国商事株式会社からの資金提供

■ 東日本大震災避難者支援応援ファンド

東日本大震災で被災され、秋田県内に避難されている方々の生活、健康に関わる支援活動で、秋田県内で行う活動を対象とする。

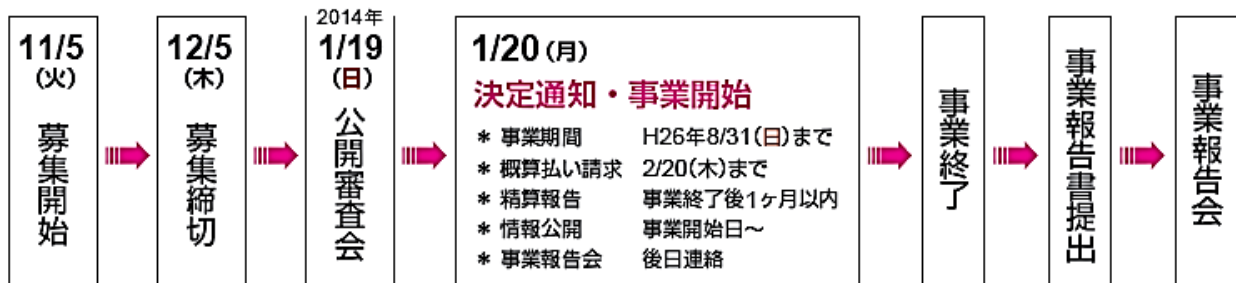
● 助成するファンドの種類と金額 ●

助成額	助成率	件数
上限10万円コース	90%	5団体
上限30万円コース	90%	5団体
上限50万円コース	90%	1団体

助成額	助成率	件数
上限10万円コース	100%	2団体
上限30万円コース	100%	2団体

助成額	助成率	件数
上限10万円コース	100%	2団体
上限20万円コース	100%	1団体
上限30万円コース	100%	2団体

● 助成スケジュール ●



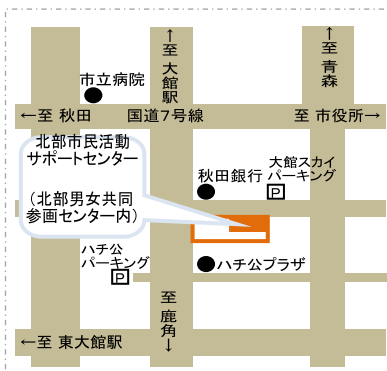
● 応募・お問合せ先 ●

県北地区 NPO法人秋田県北NPO支援センター TEL.0186-49-8553 FAX.0186-49-8589
〒017-0843 秋田県大館市字中町 5 E-mail : angec1@io.ocn.ne.jp

● 主催・統括 ●

認定NPO法人あきたスギッチファンド TEL.018-839-8941 FAX.018-829-5803
〒010-1403 秋田市上北手荒巻字堺切24-2 E-mail : madoguchi@sugicchi-fund.jp

秋田県の市民活動団体の情報が満載！秋田県市民活動情報ネット <http://www.akita-kenmin.jp/npo/index2.asp>



<編集後記>季節の変わり目で体調をこわす方が多く見られます。私も風邪をひいてしまいました。体調管理に気をつけなければと気を引き締めております。 <高坂>



『んだすな』には、人と人が願いを共感し、協力し合えたらという想いが込められています。

平成 25 年 11 月 10 日発行
発行：秋田県企画振興部地域活力創造課
〒010-8570 秋田市山王四丁目1-1
TEL.018-860-1245 FAX.018-860-3875
編集：北部市民活動サポートセンター
〒017-0842 秋田県大館市字馬喰町 48-1
TEL.0186-49-8553 FAX.0186-49-8589
<http://www.akita-kenmin.jp/north-support-center/>
E-mail angec1@io.ocn.ne.jp

○北部市民活動サポートセンターは秋田県から委託を受けて特定非営利活動法人秋田県北NPO支援センターが運営しています。